

2019年度 自己評価公表

大阪信愛学院幼稚園

◎本園の教育目標

カトリック精神を基盤とする幼きイエズス修道会の教育理念に基づき、園児の全人格的な開発を目指す。一人ひとりが主体的に活動し、それぞれの可能性を最大限に伸ばして自己形成を図り、また豊かな心をもって生活することのできる人を目指し、育成する。

キリストの教えに根ざした教育	神の愛によってつぐられ、かけがえのない「いのち」を与えられている事を知り、日々の保育を通して祈る心、感謝する心を育てます。
一人ひとりを大切にす教育	自分が神からも人からも愛されていることに気づき、園児と教師、園児相互の関わり合いを通して一人ひとりが大切にされ、活かされている事を感じ、互いに思いやり、いたわり、励ましあって生活する態度を育てます。
自己形成を促す教育	自分で選んだ活動に取り組み、関わりながら充足感を味わい深めるように援助し、困難を乗り越える忍耐、努力、協同の態度を育てます。
社会貢献への自覚と態度を形成する教育	日常生活の場や社会の様々な出来事を通して、弱い立場の人たちと共に歩むことが出来るよう、人を思いやる心、奉仕する心を育て、自分は社会より期待されている存在であり、それに応えていく存在でもある事を自覚する心を育てます。

◎重点目標

資質向上の為のプロセスの可視化	・モチベーションの向上を目的としたシステムの導入を利用し、個々の職員のモチベーションやスキル向上のプロセスの可視化に努める。
宗教教育(心の教育) テーマに沿った個人の思想・意思を互いの違いを見つめつつ分かち合う	・会議や保育後の時間を利用してワークショップなどを取り入れながら互いの特性や違いを知り、分かち合う中で豊かな心を養う
研修① 自己研鑽のための研修を様々な形で行う	・園内外の様々な研修に積極的に参加し様々な分野の資質向上を図る
研修②(保育・教材研究) 保育見学の実施と実践内容の向上。教材研究による環境の見直し	・他の保育者の保育を観察し子どもの動き・保育者の動き・環境設定を見て学ぶ時間を確保する ・教材研究の時間を通して考察し、日々の教材提供を振り返り必要に応じて見直し・改良・修繕を行う。

◎本年度の取り組み内容及び自己評価 (A:十分できた B:できた C:できなかった)

中間的目標	取り組み状況	自己評価	
資質向上の為のプロセスの可視化	<p>教員評価制度を導入し、資質向上のためのシステム化を試み、担当者と担当教諭とで話し合いを重ね、信愛幼稚園の資質向上に繋げる為の内容を検討した。話し合いを重ねた上での内容ではあるものの、実践する中で改良が必要であることも考慮しながら慣れないシステム導入ではあるが作成し実施しはじめた。</p> <p>①個人の目標設定 ②担当リーダーとの面談 ③個人の振り返り(予定) ④目標達成の到達度とその後の課題設定の為の評価会議(予定)</p>	<p>作成に約半年の期間を要した為、取り組みを始めたのは11月であった。すべてのプロセスを終えていない為、効果は実証できない所があるが、信愛幼稚園らしさを深め、職員一人ひとりのモチベーションの向上に繋げられる充実した内容となるようにこれから改良を重ねていきたい。</p>	B
カトリック精神に触れる中で職員・園児が共に豊かな心を育てる	<p>職員は毎日の朝礼の際に“「始まりのことば」聖書ととも歩む日々366 片柳弘史 著”の本を読み、その日の担当者が感じたことを分かち合う時間を持っている。また、園児に対しては日々保育の中でカトリックの精神に触れられるような関わりを心掛けたり、教材を通して子ども達の心に留まるような工夫をしながら関わっている。年長児に対しては宗教担当教諭による「神様のお話」の時間を用いて世界の貧困についてや命について考える時間設けている。園児(年長児)に対しては貧困・戦争・ホームレス・聖書のたとえ話をテーマに身近なところで起こっている事、知らない所で起こっていることに触れ“自分”はどうあるべきかを考える機会を設けている。</p>	<p>園児たちに伝えるための学びを深める為に、宗教教育に力を入れている園に見学に行ったり、宗教教育に特化した研修に参加した。教具を必要とするものもあり、取り掛かれるものは限られているが、年長児に対しては担当職員が「神様のお話」の時間を利用して前年度より3回多く時間を設けることが出来た。園児に対しては前年度より機会を設ける事が出来たが、職員に対して宗教心を養う機会であったりカトリック精神を基盤とした自己の啓発は前年度と大きく変わる事がなかった。園の特長であるカトリック精神に基づいた保育を深めるにあたっては職員の学び・啓発も重要であり園の基盤であることから、これまで以上に取り組む機会を設けたい。</p>	B
研修① 自己研鑽のための研修を様々な形で行う	<p>まず、個人の振り返りを行った上で、小グループに分かれて保育の流れや予定の立て方の工夫について、園児・同僚・保護者に対しての言葉がけについて、子ども個人個人のどのようなところに注意し関わっているかなど共有・分かち合いをし、自分の保育をより良いものに出来るよう話し合いの時間を持った。</p>	<p>あえて時間を確保することで、自身の保育を振り返り、反映させる材料を得る機会となり、自己研鑽の為の時間を有意義に使う事ができた。分かち合いでは経験や日頃の不安を共有したことで職員間のお互いのフォローするべきポイントや自身の弱みを課題として表面化することができた。表面化した事を個人だけのものとせずチームとしてどのように対応するかを深める事が出来ればより良い保育や業務に繋がることを感じ、更なる課題となった。</p>	B
研修②(保育・教材研究) 保育見学の実施と実践内容の向上。教材研究による環境の見直し	<p>保育の質の向上を図るため、他園や園内の保育の見学を順次行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大濠幼稚園 2名 ・麦の穂保育園 3名 ・園内見学 8名 <p>日々の保育に追われる中で教材研究は後回しにしがちな事が多い為、教材研究・教材作成・教材修繕の時間を確保し取り組んだ。</p>	<p>他園を見学することで教材や環境に関して新たな発見や自園との違いを知ること自園のこれからの課題が見えた。教材研究では日々の業務に追われ後回しになりがちであった時間を確保することで日頃できない修繕や練習に費やすことが出来たが、自己の調整によって時間を捻出出来ればより一層向上が見込まれ、確保できるように工夫し取り組みたい。</p>	A

◎総合的な評価結果

B	4つの評価項目について重点的に取り組んだ結果、これからの課題がさらに表面化された1年であった。学院として取り組み始めた教員評価制度等の導入により、資質向上のためにシステム化することによって、表面化された課題についてどの様に向き合うかを検討する年になり、これからより良い幼稚園にする為に検討を重ねる大きな機会となった。今回見えてきた課題に継続して取り組み、より信頼して預けてもらえる園を目指していきたい。
---	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

◎学校関係者評価

(1) 構成

教育会代表(副会長・評議員)、学内関係者(園長・主任・担当教員)

(2) 開催

令和2年3月6日(金)

(3) 評価のために使用した資料

2019年度自己評価公表

(4) 学校関係者評価委員会のまとめ

○資質向上の為にプロセス可視化

システムの導入を試まれたり、保育以外のところでも職員一人ひとりが幼稚園の資質向上に繋げる為の内容を検討されていて、職員一人ひとりのモチベーションの向上に繋がっているところが素晴らしいと思いました。

○宗教教育について

子供から家で神様や世界には困っている子どもがいる、という話が時々出てきます。園の精神が子供に伝わっている証拠であり、今年度の園の取り組みの成果が確実に出ていたと感じました。

年長児の‘神様のお話’も、先生のお話は子ども達への影響力が大きいので、年少用、年中用があれば良いと思いました。

また、幼稚園での3年間は人間形成の基盤となることから、自分達の体験できない『貧困ホームレス』『戦争』『聖書』の話を、実際ご覧になった先生から伺うことで、より臨場感をもって身近に理解を深められているように感じました。積極的に行って頂きたいです。

○総合評価

より良い園運営のために目標を立て積極的にやっていることや、職員の学びや技術向上を図りたいという試みが感じ取れるが、改善の試みが具体的になるとより良いと感じました。それぞれの自己評価に対して改善目標が立てられており、次年度の取り組みに期待したいです。教育方針の根幹であるカトリック教育に対して重きを置き長年にわたり大切にしている部分を守りながらも教員評価制度の導入などの支援を受けて新たな取り組みを積極的にやっていることを評価します。